

アイリックコーポレーション 業法改正対応と比較推奨業務のDXでセミナー

大量満期対応へRPAで業務革新



三村氏



川村氏

アイリックコーポレーションは1月27日、業務自動化ソリューションベンダーのユーザックシステム㈱と共同で、「保険業法改正への対応と損害保険比較推奨業務のDX推進」をテーマにしたオンラインセミナーを開催した。保険業界では法改正により、比較推奨業務の適正性・透明性が一層求められるようになっており、代理店の現場では複数社見積りや帳票作成など業務負担の増大が懸念されている。当日は、アイリックコーポレーションの保険業務ノウハウとユーザックシステムのRPA技術を組み合わせ、火災保険の見積作成業務を自動化・標準化する「火災保険RPA見積システム」を軸に、比較推奨業務における生産性向上と業務品質の両立に向けた具体策が示され、約200人の代理店関係者が視聴した。

第一部ではアイリックコーポレーションの三村寛氏が登壇し、「火災保険RPA見積システム」を紹介した。同システムは火災保険の見積作成業務を自動化・標準化するもので、入力作業時間を大幅に削減し、ヒューマンエラーの防止にも役立つ。火災保険では商品改定により長期契約の上限が短縮され、2015年以降は最長10年、22年改定では最長5年となった。これにより25年に満期が集中

システム自動化で効率と品質を両立

大傾向にある。中でも、複数社で見積システムへの入力作業は負担が大きく、入力ミスのリスクも課題となっている。こうした定型作業をRPAが代替することで、募集人

が顧客対応など付加価値の高い業務に集中できる体制の構築につなげられると説明した。実際の運用では、代理店が物件情報(住所、構造、面積、保険金額、地

震保険割引の有無など)をExcelのヒアリングシートやリスト形式で入力する。専用アプリ上で入力データと見積り対象の保険会社・プランを選択して実行すると、R

PAが共同ゲートウェイを通じて各保険会社の代理店システムにアクセスし、所定の見積り入力作業を自動で行う。作成された見積書は共有フォルダに保存され、担当者が後から参照できる仕組みだ。既存システムを大幅に改修することなく短期間で導入できる点も特長としている。

三村氏は同システムについて、「業法改正対応と業務効率化を同時に実現したい代理店にとって有効なDX手段になる」と強調した。第二部では、ユーザック

の技術」と説明した。定型化可能な操作をRPAに設定すれば、データ集計やシステム操作など繰り返しの作業を人に代わって処理し、工数削減や入力ミス防止につながるという。同氏はデモ動画も示し、Excel資料の作成やデータ転記などが自動で行われる様子を

また、保険代理店業務におけるRPA活用例として、二つの具体的な事例が示された。一つ目は、申込書に記載された内容を管理用Excelに転記し、各保険会社の

である。RPAが代理店システムから満期対象者を抽出し、担当者別リスト化した上でメール送信まで行うことで、日々の確認作業を省力化するとともに、通知もれの防止にもつながるとした。RPAは、これら以外にも定型的なPC作業から基本的に自動化が可能で、企業の業務をロボットに覚え込ませて運用できる。ユーザックシステムは自社RPA製品「Autoジョブ名人」を開発・提供しており、20年以上の開発歴で約1400社以上に導入されている。同製品の特長は高い稼働安定性で、一度指示した作業は必ず完遂される設計となっている。これはネットワーク停止やウェブ操作の遅延などで途中中断が起きても自動復旧処理を行い、業務が止まらないよう配慮した結果であるという。

最後に三村氏が再び登壇し、川村氏とともに、RPAによる定型作業自動化が法改正対応や大量更新期に直面した保険代理店業務の有力な解決策になると強調し、今後両社では保険知見とRPA技術の融合による支援を推進していく方針であると締めくくった。